令和元(2019)年度　江戸川区立小岩第二中学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	・進んで学び、協力し合う生徒の育成 ・規律を守り、責任を果たす生徒の育成 ・健康で思いやりのある生徒の育成	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・「江戸川一を目指す二中」 ・所属感、自己肯定力、自己有用感を持たせ、二中の生徒であることにプライドを持つ。
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞＜成果＞・行事、委員会活動、部活動などを通して、所属感、自己肯定力、自己有用感及び二中の生徒であることのプライドに確信が持てた。 ・いじめ・不登校対策、ボランティア活動の推進等の指導が功を奏し、より落ち着き前向きに学習に取り組む環境を保っている。 ＜課題＞・引き続き、家庭学習習慣の定着を徹底し、基礎学力の底上げを図り、学力を向上させることが課題である。 ・家庭や地域の持つ課題に外部機関との連携をさらに強めながら向き合っていく。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	近隣小学校、PTA主催行事、連携協議会等の実施	年3回実施し、学力、学習到達目標、家庭環境の共通理解を図る	A	A	円滑に進んでいる。地域、家庭環境面での理解を共有できた。	A	小学校の校庭を借りているためさらに連携が進んだと聞いている	近隣小学校の授業参観等を更に推進
	ボランティア活動の推進	ボランティア活動を奨励、充実感、達成感、自己肯定観の充足	年間5回、各ボランティア活動にできるだけ参加	延べ人数で全校生徒数半数以上の参加を目指す。	B	B	自然災害により実施できなかったボランティア活動があった。	B	昨年同様積極的にボランティア活動に取り組んでほしい。	教員の負担が大きい点を改善したい。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	ICTアシスタントによる校内研修の実施	ICTを活用した研究授業に年2回取り組む	A	A	年間2回の研究授業を行った。ICTを活用した道徳の授業に取り組んだ	A	評判は聞いているが授業を見る機会が少なかった。	パソコンの台数が足りない。
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	10月研修会を実施、不登校に対する対応を学び理解を深める	フェイスシートを作成。5月までに全教員が共通理解し対応する	A	A	支援が必要な生徒の共通理解を図り役立てた。特別支援教育研修も行った	A	不登校生徒が増えているのは問題だが先生方の取組は評価できる	教員の理解を深める研修の更なる充実
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	放課後補習、土曜スクール、土曜の受験対策講座を行う	放課後補習、土曜スクール21回 土曜の受験対策講座13回	A	A	補習、受験対策講座とも予定通り実施できた。進路決定率が上がった	A	成果に表れてきている。HP等で拝見すると学力が伸びていることがわかる	学力調査での数値目標達成に向けての工夫
	学校図書館の整備・充実	学校図書館の整備・活用の推進	学校図書貸出電子化を推進 蔵書の整理	新着購入本を2学期に完了させる　蔵書の整理も随時行う	B	B	新着本購入は予定通り実施。蔵書整理が後半滞った 。さらに利用者を増やす	B	実際に活用している場面は見ていない。	司書の配置が必要
	読書科の更なる充実	様々な事象に関して、自分で問題を見つけ出し問題解決をする力の定着	図書カード作成 探究的な調べ学習の充実	年1回読書カード作成 総合の授業での調べ学習	B	B	学習の中で情報を収集・整理・分析する力がついてきている。	B	各自が作成した読書カードは完成度が高い。	他者と共に思考を深める活動をさらに取り入れる
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	補強運動等の実施 昼休みの校庭利用	運動能力テストで半数以上の種目で都平均以上が目標	B	B	目標達成までは至らなかった。効果的な補強運動を更に模索中	B	運動会ぐらいしか実際に活動する場面は見る機会がなかった	改築により校庭の縮小
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	英語力を図るため英語IBMの全学年実施	英語IBMのテストで半数以上の都平均以上が目標	B	B	目標達成までは至らなかった。ALTの授業は効果的に実施できた	B	評判は聞いているが授業を見る機会が少なかった。	ALTの授業回数を増やすべき
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	パラリンピック教育の充実、国際理解教育の推進	9月シッティングバレーの選手の講演、体験を1回実施	A	A	障がい者スポーツへの関心が高まった。	A	発展途上国へ上履きを送る取り組みが好評であった。	来年度はパラリンピックアーチェリーを観戦予定
相談体制 健全育成の充実	健全育成の充実	「東京SNSルール」の推進による児童・生徒の生活習慣や情報モラル意識の向上	基本的生活習慣の確立、情報モラル意識の向上	特にスマートフォンの使用モラルについて注意喚起を促す。	B	B	「東京SNSルール」を踏まえ学校独自のルールを作成に取り組んだ。	A	生徒の意識を変えるのは家庭の責任である。学校の取組は評価できる	更に進めるが保護者の意識改善が必要。
	いじめ・不登校等の対応	いじめ・不登校に応じた未然防止と早期対応に関する対応の充実	いじめ・学期1度の調査 不登校対策・細やかな対応	いじめ・ゼロ 不登校・10件以内	B	C	いじめ調査は47件上がったがすべて解決した。不登校件数は41件で減らすことはできなかった	A	先生方の取組は評価できる。原因が家庭に起因する場合は改善が難しい	不登校の出現率をできだけ抑える。
特別支援教育の推進	インクルーシブ教育の推進	特別支援教育の理解啓発と授業における工夫	全教員が教材研究や指導観を改善する。	週1回、生徒個に応じた支援方法の検討	A	A	情報交換が活かされた。もっと個に応じた支援を模索中	A	特別支援委員会の取組を知りきめ細かな対応をされていることが分かった	更に共通理解を深める。
	各種支援員の活用推進	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、登校支援員との個別面談	SC、SSW、SSとの個別面談	生徒の変容を確認、分析する。	A	A	SSWの支援が新たに加わり相談ん体制が強化された。	B	取組を見る機会がなかった。	SCの複数配置を希望。